

科学研究費助成事業（特別推進研究）研究進捗評価

課題番号	18002014	研究期間	平成18年度～平成22年度
研究課題名	新型インフルエンザウイルスの出現機構とその制圧		
研究代表者名 (所属・職)	河岡 義裕（東京大学・医科学研究所・教授）		

【平成21年度 研究進捗評価結果】

該当欄		評価基準
	A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
（評価意見）		
<p>本研究課題は、新型インフルエンザウイルスの出現機構と病態解析、そしてその制圧に向けたものであり、折りしも新型豚インフルエンザの流行が始まっている時期に、社会的にまさに必要とされる重要な研究である。</p> <p>鳥インフルエンザウイルスの変異がヒトからヒトへと伝播する要因となる点変異の同定、また、抗インフルエンザ薬耐性ウイルスの出現メカニズムの解明など、研究成果も順調に達成されている。しかし、インフルエンザウイルスの「制圧」に向けての取り組みは、まだ端緒の段階であり、今後の進展が望まれる。</p> <p>また、新型インフルエンザ対策に向けて他の研究費を受け入れ中であるが、それらによる研究課題と本特別推進研究で取り組む研究課題を峻別するための配慮を今後も引き続きお願いしたい。</p>		

【平成24年度 検証結果】

検証結果	本研究は、新型インフルエンザウイルスの出現機構と病態解析、その制圧に向けたものである。近い将来に新型豚インフルエンザの流行が予測されることを考えると、社会的に必要とされるインパクトの高い重要な研究である。
A+	鳥インフルエンザウイルスの変異がヒトからヒトへと伝播する要因となる点変異の同定、また、抗インフルエンザ薬耐性ウイルスの出現メカニズムの解明など、研究は当初目標を超えて順調に進展しており、その研究成果は欧文専門誌に数多く報告され、注目されている。この分野の世界における研究リーダーとして、インフルエンザウイルスの「制圧」に向け、より多くの取り組みと期待以上の成果が得られたと評価する。